

(別添7)

事業所名 グループホームめずらハウス

2 目標達成計画

作成日: 平成 27 年 1 月 29日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	31	入居者の方の高齢化と重度化が進んでいるため、今後褥瘡の発生がリスクとして予想される。皮膚の圧迫やこすれ等のために、褥瘡の好発部が赤くなっている方や、最近になり寝返りができなくなるほど身体機能低下がみられる方が見受けられるようになった。褥瘡ができることはいったい何を示しているのか。褥瘡ができてしまうとその方のQOLにどのような影響を与えてしまうのか。今の段階で再度、看護職と介護職が協働してその予防について学び、そのためのケアの実行が必要である。	褥瘡の発症のメカニズムとその予防を理解し、ケアに生かすことができる。	1、職員個人が「なぜ褥瘡ができるのか」の課題に取り組んでレポートを提出。褥瘡についての基礎知識の獲得状況を把握し研修プログラムを計画。2、看護職員と介護職員がそれぞれの専門性を生かしたケアについて検討、提案、実行する。3、状況の報告を受け事業所としての方針を決定し、褥瘡が予防できるケアに取り組む実践。	2ヶ月
2	40	食事の準備等を職員と一緒にすることで生き生きとした表情で「仕事をした」という実感が活力になっておられる入居者の方もいらっしゃる。現状のできることに加えて、ご利用者一人一人に応じたできる事の可能性を探る必要がある。家事動作の中でも、食に関することはほとんどの方が好まれる作業である。職員がご利用者のできることを奪っていないか検討し、日常の業務を振り返ることが「ご利用者本位のケア」につながるのではないかと考える。	ご利用者の「できること」を大切にするケアの実践。	1、食に関する家事作業で職員と一緒にであれば、ご利用者が今できている事を確認する。2、「A様がいつもするのではなく、B様もできるのでは。」「これだけでなく、あれもできるのでは。」と新たな可能性を探る。3、食に関する事だけでなく、ご利用者の生活全般についても同じように、「できること」を大切にされたケアを実践しようと考えられる。	3ヶ月
					2ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。